2020/4/1～2021/3/31

令和２年度
年次報告書

特定非営利活動法人　地球緑化センター

第 27 期緑のふるさと協力隊活動写真より

▶目次

P.1-3　…　事業報告　緑のふるさと協力隊事業

P.4-5　…　事業報告　体験交流事業

P.6　　…　事業報告　緑の学校事業・広報ＰＲ事業

p.7　　…　メディア掲載

p.8　　…　会計報告

p.9　　…　ご支援ご協力のお願い

事業報告

令和２年度（2020 年度）は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、これまでの活動に様々な制限がかかる１年間でした。そのような中でも、会員の皆さまや、参加者・協力隊員、地域の思いを大切にできる限りの活動を展開してきました。一日も早く事態が落ち着き、そしてこれまで以上に多くの活動を実施できる日を願います。

１．緑のふるさと協力隊事業

若者の長期農山村貢献活動。27 年間で 799 名が参加。

総務省「地域おこし協力隊」のモデルにもなったプログラム。

（１）第 27 期緑のふるさと協力隊の派遣

派遣先：12 市町村

派遣人数：13 人（男性 9 人、女性 4 人）

内訳：社会人 11 人、学生 2 人（うち休学 2 人）平均年齢：26 歳

活動期間：2020 年（令和 2 年）4 月 11 日（土）～2021 年（令和 3 年）3 月 14 日（日）

事前研修：4 月 11 日（土）～14 日（火）3 泊 4 日　山中湖畔荘 ホテル清渓（山梨県山中湖村）

内容：講座、個人面談、個人発表「現地活動に向けて」

◎当初の予定から会場を変更し日程も短縮したうえで実施しました。

隊員は派遣先に着いたのち、２週間の自宅待機期間を経て活動をスタート。

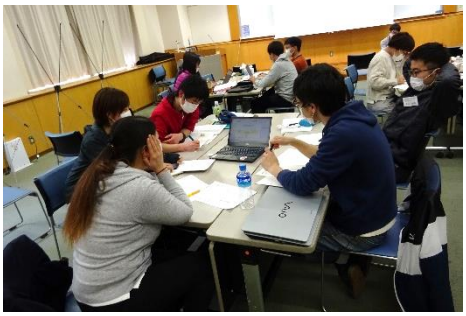
例年 5 月下旬に行っている「受入先担当者会議」は中止としました。

現地訪問：７月～8 月　事務局職員が受入先を訪問。隊員や受入先担当者との面談、活動先訪問など

中間研修：9 月 8 日（火）～9 日（水）オンラインで開催
内容：情報交換、個人発表、グループワーク、後半の目標発表など

◎例年東京で開催していましたが、新型コロナの流行状況等を踏まえ、初めてオンラインで実施。
画面越しではありましたが、お互いの活動について共有し、刺激をもらった研修になりました。

総括研修：3 月 11 日（木）～14 日（日）　3 泊 4 日　国立オリンピック記念青少年総合センター
内容：個人発表、報告会の準備など
◎約 1 年ぶりの再会となった総括研修では、初日にこの 1 年間の活動を振り返る個人発表を行いました。その後は活動報告会に向けての話し合いや準備などに取り掛かりました。



活動報告会「エキサイト☆ふるさと 2021」：3 月 13 日（土）
◎今年は YouTube によるライブ配信を実施。会場に来られない方など多くの方に視聴いただくことができました。当日の様子は YouTube「緑のふるさと協力隊」チャンネルから視聴できます。
活動報告会の内容：基調講演　講師・榊田みどりさん（明治大学客員教授）
活動地域の紹介
グループ発表「農山村の暮らしの魅力」「地域資源の活用」「自分自身の変化」

（2）「若葉のふるさと協力隊」（短期体験プログラム）の実施

農山村で暮らしてみたい、活動してみたいという農山村と関わるきっかけを求めている人や、「緑のふるさと協力隊」に興味を持っている若者たちを対象に、農山村での暮らしを体験できる機会として実施。緑のふるさと協力隊員が企画・運営。10カ所で計画していましたが、新型コロナのため3カ所は中止し、7カ所で開催することができました。

なお実施に際し、参加者は開催日2週間前から検温等の健康観察シートを記入し、期間中も手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用などの感染症対策を実施しました。

開催地：岩手県一関市、山形県小国町、群馬県高山村福井県坂井市、高知県大川村
　　宮崎県諸塚村、沖縄県東村
参加者：25 人（男性 11 人、女性 14 人）
内訳：大学・大学院生…20 人、専門学校生…2 人、会社員等…3 人

（3）令和３年度（第 28 期）へ向けて

受入先募集：「受入先募集要綱」の配布等
隊員募募集：
・説明会（東京、大阪、名古屋、福岡で合計 8 回実施）
　→OBOG の協力を得て体験談も聞ける説明会を開催
・インターネットによる広報活動
①Facebook 等への広告　　②Web 掲示板への投稿
③求人サイト「日本仕事百貨」記事掲載
④SNS への投稿（Facebook、Twitter、Instagram、note）
派遣先自治体数：12 市町村
選考結果（隊員決定）：15 人（男性 2 人、女性 13 人）
　　社会人 4 人、学生 11 人（うち休学 8 人）

第 28 期緑のふるさと協力隊
12 市町村 15 人派遣

２．体験・交流事業

（１）森林ボランティア「山と緑の協力隊」の実施

▶国有林・公有林をフィールドとした市民参加の森林づくり活動。
　これまでに 300 回以上のプログラムを開催、のべ 2 万人が参加。

令和 2 年度の「山と緑の協力隊」は当初、赤沢自然休養林、三宅島、湘南海岸林、陸前高田市・高田松原、多賀町・高取山の 5 カ所で合計 10 回の開催を予定していましたが、新型コロナの流行状況を見ながら受入先と協議し、5 回は中止になりました。実施できたプログラムについては、①受付時の検温、②適宜アルコール消毒、③（可能な限りでの）マスク着用などの感染症対策を講じました。

湘南海岸林ボランティア

第 60 回・6 月 20 日（土）　苗圃の草取り、ビーチクリーン
第 61 回・9 月 26 日（土）　苗圃の草取り、砂防林内のつる伐り
第 62 回・11 月 14 日（土）　砂防林内の間伐

高田松原プログラム

9 月 12 日（土）～9 月 13 日（日）　植樹された「高田松原」での草取り、防災学習

高取山プログラム

11 月 28 日（土）～11 月 29 日（日）　間伐、枝打ち、製材体験、森林教室

（2）企業における社会貢献活動、CSR、社内研修および交流活動の支援協力

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度予定していたプログラムは全て中止となりましたが、企業と受入側をつなぐコーディネート役として、連絡や調整を行いました。

①電機連合：10 月 4 日（日）「高田松原を守る会」へ草刈り機寄贈　贈呈式

※2014 年から被災地と心をつなぐ活動として陸前高田市でのボランティア活動を実施。

②メタウォーター株式会社：10 月 14 日（水）現地視察・下草刈り

※2010 年より新入社員研修の一環として奥多摩町で森林ボランティア活動を実施。

③株式会社 LIXIL 住宅研究所：11 月 10 日（火）イロハモミジ植樹

※2016 年より上野原市で「花咲く森プロジェクト」として森林ボランティア活動を実施。

①

②

③

④株式会社日本触媒：地球温暖化防止と日中友好の森づくり（中国内モンゴル）現地視察は中止となりましたが、林業局による管理を通年で実施しました。

管理作業： 散水、枝打ち、除草、防火対策、害虫予防、巡回

（3）中国・緑化交流事業

▶団体設立の原点である中国での植林ボランティア。1993 年より中国人民政府との連携で、内モンゴル自治区伊金霍洛(エジンホロ)旗、河北省豊寧県、重慶市など 5 カ所で実施。これまでに日本から 120 回以上植林団を派遣し、約 2,500 人が参加、ポプラなど 747 万本を 5,600ha に植林。

豊寧・緑の親善大使

当初は 5 月 13 日から 17 日にかけての 4 泊 5 日で「第 31 回 豊寧・緑の親善大使」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスのため日本からのボランティア派遣は中止となりました。

しかし、郝建国中国事務所長立ち会いのもと、4 月 17 日に林業局や地元住民が多数参加して、土城鎮四間房村に約 300 本の障子松を植林しました。

3. 緑の学校事業

▶児童・生徒を対象とした環境教育プログラム

訪問学習、イベント出展を通じて、子どもたちへ緑の大切さや自然と触れ合うことの楽しさ、森林の役割などを伝えています。

（1）エコ語り部チームの活動

各種イベントでの紙芝居上演・クラフト体験の実施

・中央区環境活動フェス　11 月 7 日（土）～8 日（日）中央区立環境情報センター

・オータム森フェス　　11 月 21 日（土）～23 日（日）中央区立環境情報センター

語り部養成講座　紙芝居の魅力と演じ方を学ぶ学習会を開催しました。

11 月 8 日（日）　中央区環境情報センター　講師：松井エイコさん（壁画家）

（2）訪問学習の受け入れ

11 月 12 日（木）　正智深谷高等学校 1 年生 9 人

学校が行う企業訪問プログラムの一環での訪問学習。

環境に関する質問だけでなく、NPO で働くこと、やりがいなどについての質問もありました。学生達にとって、自分の将来像について考えるきっかけにもなったようです。

4. 広報・PR 活動、その他

▶地球緑化センターの活動を広げていくための広報活動、関係団体との連携・協力

（1）機関誌、会員向け情報誌の発行

・機関誌「タマリスク」　第 146 号（令和 3 年 1 月発行）

・会員向け情報誌「緑の通信」　年 3 回発行

（7 月、10 月、令和 3 年 1 月発行）

（2）ホームページ、SNS、ブログなどを活用した広報活動

・ホームページのリニューアル：スマートフォンでも快適に利用できる Web サイトとして一新しました。

・プログラム告知、開催案内としてホームページや募集掲示板に投稿したり、Facebook、Twitter、Instagram 等でも適宜活動報告などを掲載して広報活動を進めました。

（3）共同活動の推進

関係団体への後援名義協力、関係団体との連携・協力を行いました。

・東京しごとセンター　NPO スタッフ体験事業の受入　1 人（2 月/3 日間）

・インターンシップ生の受け入れ

①東洋大学国際学部　　2 年生 1 人（8 月～9 月/10 日間）

②慶応義塾大学法学部　2 年生 1 人（9 月/10 日間）

③メルボルン大学院環境科学学部　1 人（12 月/6 日間）

④日本女子大学人間社会学部　2 年生 1 人（2 月～3 月/12 日間）

メディア掲載

令和 2 年度も、緑のふるさと協力隊の活動の様子を中心に新聞・地域の広報誌などに掲載いただきました。

全国農業新聞、読売新聞、岩手日日新聞、山形新聞、中日新聞、北国新聞、福井新聞、日刊県民福井、山陽新聞、高知新聞

派遣先自治体広報誌

全国水源の里連絡協議会発行「水の源」2020.winter

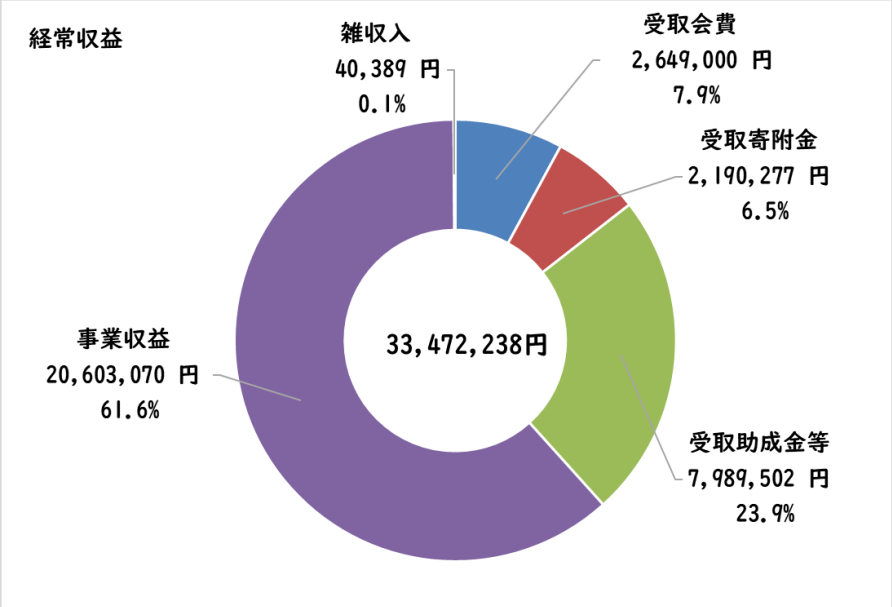
◇…「初午」の3日、白山市白峰の山口春風さん（99）方で、蚕の神に感謝し、繭の豊作を願う「繭玉団子」作りが行われた＝写真。

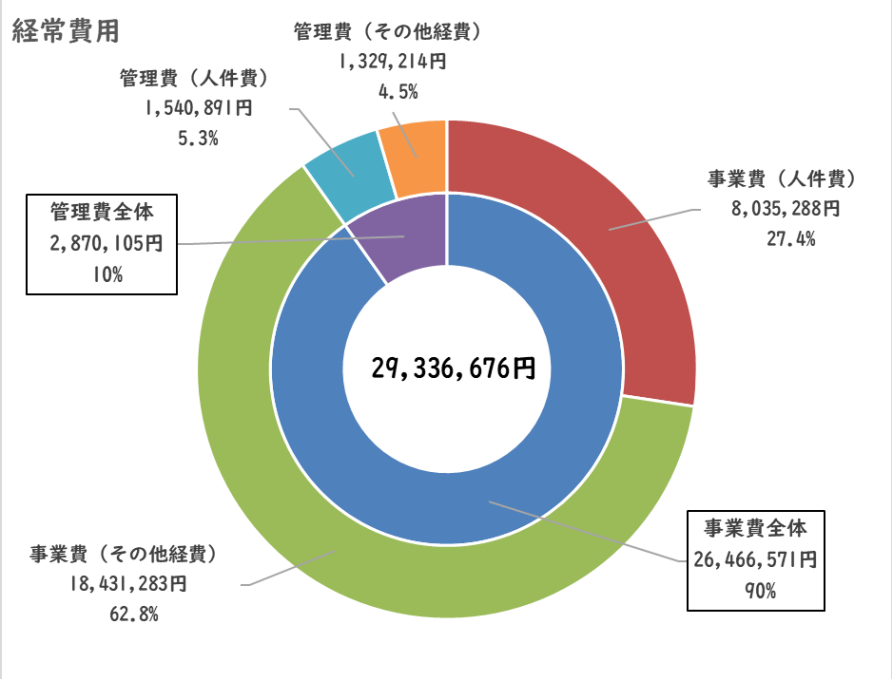
◇…養蚕業が盛んだった白峰地区でかつて多く見られた行事だが、現在は一般家庭では山口さん方のみが続けている。

◇…「ずっと蚕で生活してきたから、感謝の気持ちや」と蚕の神様に団子を供え、9月に百歳となる山口さんは意気軒高。

会計報告

令和２年度は新型コロナウイルスの影響により、事業収益が予算より 30%ほど減少しましたが、国や東京都のコロナ対策関連の給付金・助成金、皆さまからいただいた寄付金により、ほぼ予算通りの経常収益となりました。プログラムの中止や内容の変更を行ったことから経常費用が減少し、当期経常増減額はプラスとなりました。





【貸借対照表】

資産の部

流動資産	
現金預金	12,352,863
前払費用	198,000
仮払金	102,936
流動資産合計	12,653,799
固定資産	
差入保証金	2,000,000
固定資産合計	2,000,000
資産合計	14,653,799

負債の部

流動負債	
預り金	192,496
前受金	600,000
未払金	700,000
流動負債合計	1,492,496
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	1,492,496

正味財産の部

前期繰越正味財産額	9,025,741
当期正味財産増減額	4,135,562
正味財産合計	13,161,303
負債及び正味財産合計	14,653,799

ご支援ご協力をお願いします

　みなさまからの寄付は大変大きな支えとなっています。地球緑化センターの様々な活動に有効に活用させていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

▶寄付　地球緑化センターが実施している多彩なプロジェクトやそれを支える事務局運営費など、様々な場面で活用させていただくものです。
　Syncable 寄付サイトでは、毎月一定額をご寄付いただける継続寄付も受け付けています。

▶苗木募金　中国及び日本国内での植林活動の苗木を購入するための募金です。

▶緑のふるさと協力隊応援募金　緑のふるさと協力隊事業を支えるために活用します。

▶書き損じはがき・未使用切手の寄付　ご家庭にある書き損じはがき、年賀状、未使用切手等をお送りください。資料の送付等に活用します。

▶不要になった洋服で支援
ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォームサービス「Syncable」の運営する買取寄付サービス『Brand Pledge』では、
着なくなった洋服や眠っているブランド品で寄付ができます。

▶携帯料金と一緒に寄付「つながる募金」
ソフトバンクのスマートフォンから利用料金と一緒に寄付ができます。（T ポイントでの寄付も可）

寄付の方法

【現金での寄付・募金／書き損じはがき・未使用切手の寄付の場合】
〒104-0028　東京都中央区八重洲 2-7-4 清水ビル 3 階まで送付またはご持参ください。

【振込での寄付・募金の場合】
寄付・募金申込フォームより必要事項をご入力のうえ、下記口座へご入金ください。
銀行振込：三菱 UFJ 銀行　八重洲通支店（普通）1011076　特定非営利活動法人地球緑化センター
郵便振替：00130-2-761479 特定非営利活動法人 地球緑化センター

★寄付・募金申込フォーム

【クレジットカードでの寄付・募金の場合】
オンライン寄付プラットフォーム「Syncable」地球緑化センターページよりご入金ください。
クレジットカードによる年会費の納入にも対応しています。

特定非営利活動法人　地球緑化センター

地球緑化センター（Green Earth Center：GEC）は、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民一人ひとりが自ら考え行動できるよう、環境保全・地域づくり・国際協力の分野で個人や企業、教育機関など様々な人たちへ向け、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

◆設立　1993年（平成5年）　2月21日
◆法人格取得　1999年（平成11年）9月13日
◆事務所　東京都中央区、中国・内モンゴル自治区
◆主な事業（1）国内　緑のふるさと協力隊（若者の長期農山村プログラム）
山と緑の協力隊（国内森林ボランティア）
緑の学校（児童・生徒への環境教育活動）
（2）海外　緑の親善大使（中国での植林活動）
（3）広報　機関誌「タマリスク」、会員向け情報紙「緑の通信」の発行
各種イベント出展

◆役員
理事長　小川　俊一（日本都市青年会議 常任参与）
副理事長　鈴木　経彦（菅馬場谷特別緑地保全地区管理運営協議会 事務局）
理事　甲斐　良治（一般社団法人 農山漁村文化協会 編集局論説委員）
理事　城土　裕　（一般社団法人 日本森林技術協会 業務執行理事）
理事　塚田　正之（地球緑化センター緑の親善大使を育てる会代表世話人）
理事　鳥澤　文彦（一般財団法人日本青年館　業務部）
理事　永井　隆一（一般財団法人 白山観光協会 専務理事 事務局長）
監事　浅井　正美（横浜市明るい選挙推進協議会 会長）
顧問　高橋　成雄（前 地球緑化センター 理事長）
顧問　新田　均　（元 地球緑化センター 理事長）
顧問　邱　華盛　（元 中国科学院国際合作局副所長）

会員募集
地球緑化センター（GEC）は、会員の皆様一人ひとりの思いを大切にし、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け今年で28年目を迎えます。運営は会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し団体を応援してくださる方のご入会をお待ちしています。入会希望の方は地球緑化センター事務局までご連絡ください。

特定非営利活動法人 地球緑化センター
〒104-0028　東京都中央区八重洲２－７－４　清水ビル３階
TEL：03-3241-6450　FAX：03-3241-7629　MAIL:info@n-gec.org
URL：http://www.n-gec.org